



**地球環境の回復力を取り戻すのは企業の使命。
リコーグループは環境NPOとのパートナーシップで
生態系保全を積極的に推進しています。**

社会環境本部 環境コミュニケーション推進室 岸 和幸

CI日本プログラム代表 日比 保史 様

私たちの企業活動は、天然資源など地球環境の恩恵の上に成り立ち、同時に地球環境へダメージを与えてきました。リコーグループは、事業活動の環境負荷削減だけでなく、地球環境のダメージを回復することも企業使命であるという認識のもと、グローバルな視点で積極的な生態系保全に取り組んでいます。

INTERVIEW

NPOに聞く コンサベーション・インターナショナル様

すべての経済活動は、地球の生態系に支えられている。
企業も、市民も一体となり、
生物多様性により積極的な行動をすべき。



CI日本プログラム代表
日比 保史 様

Profile

CI(コンサベーション・インターナショナル) 87年設立。米国ワシントンD.C.に本部をもち、生物多様性上、緊急に保全の必要がある場所「ホットスポット」をターゲットに、40カ国約900名のスタッフが生態学的調査や研究、保全活動、企業との連携などを実施。

リコーの支援がきっかけでプロジェクトが広がった

ガーナ共和国でのプロジェクトは、今後の保全効果に広がり期待できる意義の高いものでした。リコーは、企業で唯一立ち上げ時に名乗りを上げてくださったパートナーで、活動にご賛同いただいたのは、リコーならではの選定眼によるものと思います。

リコーからの支援もあり実現した第1フェーズの成果が実績として認められ、国連から大きな資金援助を得ることができました。現在は周辺地区にプロジェクトを拡大し、将来的には、地区全体が持続可能な農法によりうるおい、原生林の保全とともに自然林を取り戻すことを目指しています。

Q

リコーが生態系保全に取り組む理由は？

企業が地球環境の維持だけでなく、積極的な回復に取り組むのは、社会的な責任ととらえています。

企業は、豊かな生態系が生み出す天然資源を利用して事業を行い、良質の製品やサービスを提供することで社会の発展に貢献してきました。しかし、一方で大量生産、大量消費、大量廃棄など、人間社会の活動は、生態系の許容能力を大幅に超えはじめています。その結果、生態系は劣化し、自然の多様性は失われ、私たちが生息できる環境は急速に悪化しつつあります。今、企業には、生態系のサービスを受けて活動を行うものとして、事業活動から発生する環境負荷の削減に努めるのはもちろん、生態系の維持・回復を行うという社会的な責任を果たすことが求められています。

企業活動が地球環境に与える影響の大きさを早くから自覚してきたリコーグループは、「環境負荷を、地球の包容力の範囲内に抑えて持続可能な社会を実現すること」を目指し、事業の全領域でさまざまな取り組みを進めるとともに、生態系の保全を推進しています。

Q

活動の目的とプロジェクトの具体的な選定基準は？

多くの生態系の中でもとりわけ生物多様性が豊かな「森林生態系」に注目しています。

リコーは、「生物多様性保全のための生態系保全」を目的に、1999年から「森林生態系保全プロジェクト」を展開しています。生物多様性を保全しつつ、地域住民が森林資源を持続的に利用できる活動を選定し、住民の理解と参画を得ながら進めることを原則としています。

プロジェクトの具体的な選定基準は、

- ◎生物の多様性が見られ、生態系が破壊される危険性のある場所
- ◎働きかけによって生物の多様性が回復される場所
- ◎社会の支持を得られる活動であり、パイロット的なもの（まだ成果がないもの）
- ◎住民の生活向上と自然環境保全が両立するもの

などです。また、グローバルに見て価値のある自然を有する地域であるなどの条件も重視しています。

現在リコーは、世界8カ国で9つのプロジェクト*を継続して進めています。

* 詳細は [63ページ](#)

Q

環境NPOとは、どのようなパートナーシップを組んでいますか？

リコーが生態系保全を進めていくうえで、生物多様性や生態系保全に精通する団体とのパートナーシップは欠かせません。

リコーの考え方にご賛同いただき、グローバルな活動基盤をおもちの団体とおつきあいいただいています。例えば、CI(コンサベーション・インターナショナル)様とは、2000年「フィリピン・熱帯雨林回復プロジェクト」ではじめて協業を行い、2002年からは「ガーナ・熱帯雨林回復プロジェクト」もスタートし、現在二つの活動を進めています。

CI様は、生物多様性に関する科学的知見を豊富にもつ、生態系と人との関わりを重視して環境問題を解決することを目的に設立された団体です。CI様の活動姿勢が、リコーの考え方と合致していたため、パートナーとしての信頼関係も深まり、プロジェクトの進捗も順調です。

CI様のような団体のおかげで、地球上の最も保全が必要な地域に私たちの支援を届けることができると考えています。

生物多様性保全は、企業、NPO、行政が一体となって取り組むべき課題

リコーは、環境負荷低減と企業成長を両立する環境経営でも高く評価されていますが、地球環境に対してのより積極的な行動である生物多様性保全についても着実に取り組み、あらゆる分野でバランスのとれた活動をなさっている企業だと思えます。日本では、リコーのように地球環境と企業の関係について明確な認識をもつ企業は、まだ多いとはいえません。人間社会の活動は、生物多様性の恩恵のうえに成り立っています。ビジネスが直接関わらなくとも、生物多様性保全は企業市民として企業が果たすべき責任のひとつと考えます。生物多様性保全はNPOだけでも、企業だけでも行えません。CIは、今後も先見性のある企業とよいパートナーシップを築き、効果的なプロジェクトを実行していきたいと思っています。

